

海外関連の日本の環境技術

—— 学会員による ISO 活動への参画と海外展開の取り組み ——

尾 崎 正 明

Masaaki Ozaki

㈱G&U 技術研究センター

今回の特集では海外活動に携わられている学会員に登場いただきます。前半は、ISO 活動に関する解説により、最新動向が確認いただけるものと考えています。また後半は、海外展開の取り組みとして、環境技術の提供や施設の運営管理、さらに、人材交流も含めた幅広い活動の紹介となっています。

前半のはじめ「ISO/TC224 における最近の規格開発状況」では、水環境全般に係わる国際基準化動向とともに、専門委員会 ISO/TC 224 (飲料水および汚水サービスに関する活動—サービス品質基準および業務指標) について主な作業部会 WG の活動状況を解説いただきました。日本チームは TC 224 設置当初より全ての WG に官民で参加し、先進技術や優良事例の紹介を期待されてきました。また、「ISO/TC275「汚泥の回収、再利用、処理及び廃棄の国際規格化」の進捗」では、発足の経緯と日本の対応、各 WG の進捗について解説いただきました。日本チームは WG5 (熱操作) と WG7 (無機物及び栄養塩類の回収) の運営に深く携わってきました。

続いて「ISO/TC282 (水の再利用) における最近の規格開発状況」では、成り立ちと活動状況とともに、特に再生水利用に係る規格や指針等の国際的な状況も踏まえ、分科委員会 SC3 (再生水システムのリスクと性能評価) における規格開発の最新状況、今後の展望について解説いただきました。また「水再利用のためのオゾン処理技術に関する ISO 規格」では、SC3 の WG2 (性能評価) からオゾン処理技術に関する ISO 規格の位置づけ、目的、スコープ等を解説いただきました。SC3 の規格は再利用用途に限定されず横断的に適用できることが特長です。

次に、後半のはじめ「川崎市上下水道局が取り組む国際事業について」では、官民連携による国際展開、技術協力による国際貢献とともに、今後の展開について紹介いただきました。また「東芝のインドにおける水・環境ソリューションの取り組み事例」では、上下水道分野と水資源リサイクル分野の事例を、「美しい海を取り戻せ! パプアニューギニアの水インフラ事業」では、㈱日立製作所から下水処理場の建設プロジェクト、運営会社への運転管理トレーニングの事例を紹介いただきました。

続いて、「世界中のあらゆる水質管理に貢献する HORIBA の計測技術」では、世界各地で貢献する計測技術、研修や学会活動を通じた人材育成について紹介いただきました。また「処理水質の安定化と省エネルギーを両立させる自動制御技術」では、㈱ウォーターエージェンシーから今後の海外展開を期待する下水処理自動制御技術を紹介いただきました。

以上、特集記事の概要をご紹介しましたが、最新動向とともに今後の取り組みについても述べられていますので、詳しくは本文をご覧くださいと思います。特に、ISO 活動では「人材の観点で計画的かつ継続的な参加が有効」との記述があり、現場で活動に参加された方の貴重なご意見として印象に残りました。また、海外展開では現地での人材育成や若手技術者の海外体験が今後ますます活動を活性化するためのキーワードと感じました。現在はアフターコロナとなり新しい働き方による活動が始まっていますが、コロナ禍においても海外活動を継続されてきた方々へ敬意を表するとともに、EICA 関係者の皆様のさらなるご活躍を祈念いたします。